令和４年度　学校自己評価
達成及び取組状況アンケート

評価基準

適切…４　　ほぼ適切…３　　やや不適切…２　　不適切…１

（１）教育理念・目標

評価項目		評点
1	本校の理念・目的・育成人材像は定められているか	３．４
2	介護福祉士養成校としての特色を出しているか	３．２
3	社会・経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を描いているか	３．２
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか	３．０

①　課題

・学校独自の教育理念を含めた特色が見えづらい。
・入学前においては、オープンキャンパスなどを通じて学生や保護者に周知されているが、入学後はあまり周知されていない。
・学校の理念・目的・特色等についてさらに周知する必要がある。特に高等学校の先生に理解していただくよう、その方法を検討し実行する必要がある。

②　改善方法

・新しいカリキュラムの導入を検討する必要がある。
・入学後も、始業式、終業式、授業の中で教育理念や目標などを教職員が学生に伝える。
・ガイダンスや高校訪問の際に、先生と話し教育理念や目標について理解してもらう。
・学福連携プロジェクト参加法人の協力をいただき、養成校の教育理念などそのメリットを発信していく。

（２）学校運営

評価項目		評点
5	学校運営方針は明確に定められ、教職員に明示されているか	３．６
6	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	３．４
7	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	２．６
8	人事・給与に関する制度は、整備されているか	３．０
9	介護業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	３．２
10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	３．２
11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	２．２

①　課題

・ワークライフバランスの実現に向けて仕事と育児・介護の両立を目指した支援策の見直しが必要である。
・情報システム化が十分でなく、ペーパーでのやり取りが多い。
・各種機関からのメール通知文書をプリントアウトして回覧する方法は、ペーパーレスとは逆行している。事務の効率化をさらに図る必要がある。

②　改善方法

・今後、結婚・出産・育児を控えた若い職員が長く秋草学園とともに歩めるような体制づくりが必要。
・アセスメントをしてどこが効率化できるか検討する必要がある。
・定期的な会議による学校運営をしていくことが望ましいい。
・事務と教務の連携による建設的合意形成を図ることが望ましい。
・情報システム化を一段と進める。
・職員の学習機会の提供と意識の向上に取り組む。

（３）教育活動

評価項目		評点
12	教育目標等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	３．６
13	教育目標、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	３．４
14	カリキュラムは体系的に編成されているか	３．４
15	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	３．４
16	介護分野における関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	３．２
17	介護分野における施設実習が体系的に位置づけられているか	３．０
18	授業評価の実施・評価体制はあるか	３．４
19	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	３．４
20	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	３．４
21	人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	３．４
22	介護分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	３．４
23	介護分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	３．０
24	教員の能力開発のための研修等が行われているか	２．６

①　課題

・アクティブラーニングを取り入れるための知識を習得させるのに時間がかかる。学生に適した教授法を模索する必要がある。

・コロナ感染症下でカリキュラム編成委員会がうまく作動せず、外部情報や外部からの意見の収集が少なかった。そのため、授業などに生かすことができなかった。

②　改善方法

・カリキュラム編成会議を行い、外部からの情報や意見を得てカリキュラム作りに生かす。
・カリキュラムツリーの作成を検討する。
・教員の研修計画等を年度初めに作成し、計画的に研修に取り組む。

（４）学修成果

評価項目		評点
25	高い就職率が維持されているか	２０
26	卒業試験、各種資格試験取得率の向上が図られているか	３．４
27	退学率の低減が図られているか	３．６
28	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	３．４
29	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	３．６

①　課題

・資格取得と授業科目との連携を図れないか。
・卒業生が現在、どのように活躍しているか把握していない。
・留学生を含めた国家試験合格率のさらなる向上。
・就職率が高く、退学率も低くなっているので、各種の積極的な取り組みを検討できる余地がある。

②　改善方法

・手話や介護保険事務管理などの講座を予定している。
・長期休暇中に赤十字などの講習参加を検討してもいいのではないか。
・同窓会及び実習施設と連携・協力して、卒業生の活躍状況を把握する。
・国家試験対策講座をさらに充実させるために講座内容を検討する。

（５）学生支援

評価項目		評点
30	進路・就職に関する支援体制は、整備されているか	３．８
31	学生相談に関する体制は、整備されているか	３．４
32	学生に対する経済的な支援体制は、整備されているか	３．６
33	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	３．６
34	課外活動に対する支援体制は、整備されているか	３．４
35	保護者と適切に連携しているか	３．２
36	卒業生への支援体制はあるか	３．２
37	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	３．２
38	高校・高等専修学校との連携によるキャリア・職業教育の取り組みが行われているか	３．０

①　課題

・就職支援等でマニュアル化していなない部分がある。
・家計の面で厳しい学生が増えているので、退学や進学をあきらめないような積極的な支援が必要である。
・障害者支援施設などの就職先の情報が少ない
・進路や就職に関する支援体制をさらに強化する必要がある。

②　改善方法

・学生支援、キャリア支援の質をさらに高める必要がある。
・今以上に高い卒業率、国家試験合格率を上げられるよう教育力を上げる必要がある。
・オープンキャンパスやガイダンスで奨学金の説明わかりやすくする。
・日頃から、学生との密な連絡がとれるような信頼関係を作る。
・学生支援のマニュアル化を進める。
・教員個人の力量に頼らず、学校として組織的な学生支援体制を構築する必要がある。

（６）教育環境

評価項目		評点
39	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	２．８
40	学外研修、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	３．６
41	防災に対する体制は、整備されているか	

①　課題

・社協や法務局への報告などで学生が主体的に学んだことを発表する機会があるとよい。
・福祉用具の拡充について、経年劣化が見受けられるため、計画的に対応する必要がある。

②　改善方法

・福祉用具の拡充を予算化する。
・施設の安全管理を徹底する。

（７）学生の受け入れ募集

評価項目		評点
42	学生募集活動は、適正に行われているか	３．４
43	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	３．８
44	学納金は、妥当なものとなっているか	３．４

①　課題

・ＳＮＳの活用ができていない。
・ＯＣへの参加人数を増やすことが重要である。

② 改善方法

・ＳＮＳの利用を検討。
・指定校入試を増やすことや学福連携等の活用でより多くの学生に興味を持ってもらえる土台はできている。
・学校説明会やＨＰ活用して十分な広報をする。

（８）財務

評価項目		評点
45	中・長期的に学校の財務は、安定していると言えるか	１．８
46	予算・収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	２．４
47	財務について、会計監査が適正に行われているか	３．２
48	財務情報公開の体制整備はできているか	３．４

① 課題

・コロナ化で財務状況が悪化している。

② 改善方法

・効率的な予算の活用をすべきである。
・秋草の魅力を伝えられる「検討委員会」を立ち上げる。

（９）法令等の遵守

評価項目		評点
49	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	３．４
50	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	３．４
51	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	３．４
52	自己評価結果を公開しているか	３．６

① 課題

・個人情報文書に関し同意書の記入などの整備がされていない。
・自己評価の結果をどう業務に生かしていくべきか検討すべきである。
・外部業者（委託契約先）に対して個人情報保護が徹底されていない。

① 改善方法

・個人情報の文書に関し、同意書の記入などの整備を図る。
・自己評価の結果をどう業務に生かすか検討する。
・外部業者（委託契約先）に対して個人情報保護が徹底する。

（10）社会貢献・地域貢献

評価項目		評点
53	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	３．８
54	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	３．８
55	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	３．０

①　課題

・コロナが落ち着いている状況を確認してボランティア活動をすすめる。
・学生たちが社会とつながる力、支える力の一助となる体験を増やす必要がある。
・公開講座などが未実施となっている。
・学生への意識付けを十分に行えていない場合がある。

②　改善方法

・ボランティアの紹介を積極的に行う。
・体験学習を取り入れる。
・学園祭などを通じて、柳瀬公民館や地域の高齢者、子供との関りを増やしていければよい。
・コロナの状況を見ながら、公開講座が実施する。
・目的意識をもって地域活動に参加するための事前の指導を行う。